

【教育長あいさつ】

- ・ 市のスクラムスクール運営協議会という特徴のある取り組みが10年以上続いている。
- ・ 子どもたちの良さを、園から高校まで地域全体で育てていこうという現れが成果としてあげられる。

【学校教育課長あいさつ】

- ・ 4月から2回ずつ校長会・園長会を行った。安定した新年度のスタートができています。
- ・ 今日の話し合いをこれから活かしていきたいと考えています。

【講演会】

講師：静岡大学教育学部准教授 中村美智太郎 氏

演題：スクラムでつくる子どもたち 学校・家庭・地域で作るコミュニティ・スクール

- | | |
|-----|----------------------------|
| 学 校 | ⇨ 様々なことを教える、学びをサポートするという役割 |
| 家 庭 | ⇨ 安心安全な環境を提供する場 |
| 地 域 | ⇨ 社会の構成や社会の人との出会いを支える場 |

1 教育大綱 「その街が教育をどのように進めるかを示す大きな方針」

学びについて

- 学校の学び ⇨ 子どもの学び(教科の学び・集団の学びなど)
- 家庭の学び ⇨ 子育てを行う(様々な側面から子どもを育てる)
- 大人の学び ⇨ 生涯学習ということで学び続けている(仕事で学ぶ、地域の関わりで学ぶ)

人口減少の影響

2050年までに

日本では30%減 静岡県では37~38%減 御前崎市では58.8%減が予想される。
子どもの数が減るといことは地域の中でより大切に育てることができる。

大人が一人一人をよりよく大切に育てることができる環境がある。

一人一人を地域全体で支える意味が大きくなる。

また

0~14歳の人口の推移は40年前と比べ2025年では3000人減 これから10年後は40年前より79%減が予想される。

ただし、40年前の時代は特別で長く続いていない。よって今は平均的な人数に近づいているということである。これは、子どもが地域の大人と出会う可能性が高くなるということ。

子どもは学校の中だけの存在ではない。地域の大人と子どもが出会う場可能性が高い。したがって、大人たちのやりたいことが子どもに届きやすい時代になっている。

教育大綱のキーワード

①主体性

- ・ 学習指導要領のキーワードも主体的対話的で深い学びとなっている。
- ・ 昔に比べ人数が少ないので子ども自身が主体的になれるような機会を大切にしたい。
- ・ 主体的とは自分で考えて自分で関わっていける力→自分に対する自信
- ・ 自分で自信をもってやってみたいと思っていればすごいことである。

そのチャンスを提供するのが私たち大人の責任

どこに自信を持ってもらえるか、どうやって自信を持ってほしいか。
これが主体的な子どもを育てるにつなげるのではないか。

②挑戦

子どもの思いは

- ・ 挑戦やチャレンジは大事だが、子どもたちは「失敗したら変に思われる」が先に立つ
- ・ 大人が強く叱る時代ではないので、だめな自分をほかの人に見られるのが嫌

「失敗してももう一度立ち直れる力(レジリエンス)」

(失敗してもいいではなく、失敗したときどのように立ち直れるかまで提示できるかが大事)

③共創

異なる立場の人と協力し合って新しい価値あるものを創り出すという意味

自分が今まで一度も会ったことのない人たちとどのように協力して何をするか。

※御前崎市ではどのようなタイミングでつくれるかを考えるのがポイント

④じりつ

自律→自分自身をコントロールする、弱くて負けそうな自分を励ます。

自立→誰かの力を借りながら自分自身で歩いていける力

①②③④の4つのどこかに経験してほしいことをいろいろなアイデアを出し合って、子どもに提供できる機会を作っていこうとするのがスクラムスクールである。

2 「スクラム」(スクラメージ)とは

- ・ プラスのイメージではない。揉み合いなどの意味からきている。
守ったり防いだりする(小競り合い) ※何から守るのか何を防ぐのかが重要
- ・ 肩を寄せ合うという意味もある。
- ・ 大人たちが肩を寄せ合って子どもたちに何ができるか、または大人たちが率先して守る。
ために盾になるのもよい。
- ・ 教育的にいうと、争うための考え方というより、大切なものを守りながら、前に進んでいく姿を表す。

スクラムは、「守る防ぐ」+「大人が肩を寄せ合って前に進めていく」の2つの要素が中心である。

「スクール」とは

スコーレというギリシャ語で暇や余暇という意味である。

スパルタは軍事教育 アテネは教養

働く以外に時間を何に使うか(暇な時間)

- ・ 学校では、学習指導要領で学ばなければならない内容が決められている**教養の部分と、集団的な活動**をする部分の2つに分けられる。
- ・ 定義すると立ち止まって考え、人と語り合い自分の世界を広げる場

地域全体が子どもにとってスクールになるということで、学校ではない時間に子どもに何が提供できるかや、子どもにどんな**経験**をしてほしいかを考える場である。

ポイントとなるのは

「どのような子どもを育てたいのか、どのような御前崎を次世代に渡したいのか」

子どもに対して行政や学校や地域や家庭がどんな形でアプローチするか

※必要なこと

どんな子どもを育てたいかを共有すること

どんな御前崎を次世代に残していきたいかを共有すること

スクラムスクールなりの子どもの育て方や次世代に残したい御前崎を考える。

分散会へのヒントとして

- ① 御前崎の子どもたちに地域でどんな**経験**をしてほしいか、逆に経験してほしくないこと
- ② 学校や家庭・地域・行政がスクラムを組んでできそうなこと
経験を実現してもらうために、どうやって大人たちが協力すべきことは何か
- ③ 出されたアイデアを誰がどうやって次につなげるといいのか、部分的にでも実現したい